

2.8 技術・家庭科

家庭分野 乗原 智美

1. 研究主題

**世田谷中学校で育てる「21世紀型能力」「深い学び」の実践的研究
技術・家庭科で支える力と学び合い、主体的な力を育む実技指導**

2. 研究主題・目的について

家庭科における「深い学び」についてを意識しながら2016年度は授業実践に取り組んだ。家庭科では実践的・体験的な学習を通して、『工夫し創造』する力を習得し、失敗しても立ち直る、次にどのようにすれば良いか考えることができる力を育てていきたいと考えている。「激しく変わる社会を前向きに生きていける人間を育てたい」という希望は、何年も持ち続けている。実践的・体験的な学習を通して、仕事の楽しさを知り 自分の生活に結びつけながら考え、学び、発展させていけることをテーマとしてきた。「21世紀型能力を育てる」ことは、2012年度までの研究主題であった「リーダーとしての資質を育てる」ことと重なり、それぞれの持つ能力を最大限に活用して、世の中の一員として生きていくこと、「知識・技能、思考力、創作・創造力、判断力、主体性、責任感、協調性、コミュニケーション力、コラボレーションする力」といった、2012年度の研究でキーワードとしてきたことを「21世紀型の力」につなげ、家庭科における「深い学び」を考える年であった。基礎基本を土台とし、目的や条件を明確にし、社会的・環境的・経済的側面から自ら判断・実践できる力を育てていきたいと考え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を試みた。

3. 研究の経緯と概要

2016年度新たに住領域の実践を行った。居住環境を考えると「避けたい・不快」と思う事項から発想を広げていき、学校図書館を活用し基礎知識の収集を行ない、班でのグループワークにつなげた。特徴としては災害時を意識したことが出発点となっていること、そしてドーム型住宅という短期間で、一般の住宅より安価ででき、丸くて温かみのある住宅を題材にして、考えたことである。実際に熊本の震災においてもドーム型住宅が揺れに強かったことが確認されている。このドーム型住宅を仮設住宅として個人スペース、共用スペース、コミュニティと発展させながら、グループワークを行った。また、個別のワークとして、インターネットや学校図書館で調べた結果をレポートにまとめることにより、資料を活用した情報の収集や活用の学習活動を充実することができ、グループワークを行うことで獲得した知識の活用、思考、判断、そして表現する力を発揮する機会をもてたと感じる。

コミュニティについてのグループワークでは、班の意見をまとめて一つのモデルを提案する場面で、意見をまとめながら、多様な考え方をする他者と協働する作業となり、多様な考え方があることについての実感を持った活動になったと感じた。(2016年度住総研助成授業)

技術・家庭科においては「生活の営みに係る見方・考え方や生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通してよりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて」という視点が考えられている。今回の住居の授業は、その中に含まれる「生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、表現をする。」などの課題を解決する力を養う場となると感じる。

震災という視点を取り入れたが、「よりよい生活の実現」「持続可能な社会の構築」に向けて、技術・家庭科の目標でもある「生活を工夫し創造しようとする実践的な態度」を意識する機会の一つとなるのではないかと考える。また、解決に向けて工夫することが大切であることに気付かせる場となると考えた。

もう一つの新たな試み、前進としては、近隣の世田谷区「こころ保育園」の園児・先生方においていただき、生徒が製作した「幼児のおもちゃ作品」を使いながら中学校で交流の授業実践ができたこ

とである。通常の時間割の中で160名の中学生を受け入れていただける園を近くに探すのは困難であったが、このたび近隣に新しい保育園ができ、また、その保育園を区および取材に来られた新聞社の方にご紹介いただき、幸運にも実施することができた。来年度以降もこのつながりを大切に、生徒の学習の場を広げていきたい。保育園の方のお話と生徒の学び（授業での様子・記述）を合わせ考えていくと、保育園児、中学生お互いに学びがあり、良い機会であったと感じる。（日本教育新聞2017年1月23日3面関連記事掲載・後述記載）

授業の小さな積み重ねが、将来、社会貢献や自己実現ができる資質につながっていくと考え、実践（授業実践、カリキュラム等）においては、何事にも熱心に取り組み、困難な場面においても自ら考え行動できる場面に授業で取り入れようと工夫してきた。「リメイク」「調理実習」「幼児のおもちゃ作り」などの実習をおこなう中でも心がけてきた。家庭科の授業時間縮減のおり、製作の時間を取るのが厳しい状況であるが、材料の準備等で工夫を重ねながら授業実践を重ねた。

また、本、資料を授業中に提供してもらうなど学校図書館との協働も継続している。2014年度および2015年度の「わたし（友達）の成長・幼児の生活と遊び」授業において、自分の小さい頃の様子を家の人に聞く課題を設定し、授業だけが単独で成り立つのではなく、今までの人生がつながっていることや、多くの人に支えられていることを伝える機会ともなった。またその、家庭科での「わたしの成長をたどる」学習を発展させ、新しく2016年度は「生命・命」に関する授業実践を「道徳」授業において中学1年生対象に実施した。

4. 2016年度公開授業

2016年6月18日（土）東京学芸大学附属世田谷中学校の学校図書館に於いて公開研究会授業、調理実習に必要な衛生準備と片付けを考えよう～ICT機器を活用して説明してみよう～を行った。中学2年生は調理実習を開始しているところであるが、衛生に関する意識が低く、実感を伴っていない。自分と同じ中学の1年生が来年調理実習を始める前にみると役に立つ、調理実習を衛生的におこなえるPR画面を作る課題を設定した。どこの場所の状態を知りたいかをクラスごとに4つあげ、4クラス分16カ所についての結果を映像で見せた。意識するための材料として日本家政学会編「炊き出し衛生マニュアル」を映像で取り込み同時に示した。①常温放置②調理中の汚染③加熱不十分などの要素と加熱しても生き残る菌や腸炎ビブリオ菌などを例にとり、菌の増え方と食中毒発症の仕組みを伝えた。本時は学習指導要領では家庭分野 内容B「食生活と自立」（3）ア「安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができること。」 「内容の取扱い」については、（1）「実践的・体験的な学習活動を充実すること。」（2）「問題解決的な学習を充実する。」場面として位置する。授業のはじめの場面で今までの内容を振り返り、なぜ、そのテーマを取り上げる必要を感じたのかを考える。loiloノートソフトで4つの作品をつなげるグループ活動を取り入れ、ICT機器を使用し、協働して全体の構成を考え作業することでコミュニケーションをとる場面設定をした。1年生へ向けての画像であるが、自分たちがこれからの調理実習で活用できることをあげて、振り返り、2年次最後のお弁当の調理実習（大量調理）につなげようと考えた。（指導案後述）

5. その他

2016年度 東京学芸大学特別教育研究推進経費「特別開発研究プロジェクト」（2016年度2017年度継続研究）を大学と他附属と共同で受け、ICTを活用した食生活の実践力を高める教育推進に関する研究～食の安全における衛生管理に焦点をあてて～ということで授業実践を行った。本校中学3年生の幼児のおやつ「バナナケーキ作り」の授業を、データとして一部使用した。2017年2月23日東京学芸大学報告会において1年次報告をした。

6. 今後の課題について

今後、住居の授業において更に深めることを考えていきたい。生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し「新たな課題の解決に向かう過程の学習」になると考える。このためには、カリキュラムとして、見通した3年間の計画が必要である。実際に被災地の方のお話をうかがう機会や、生徒の作品やプレゼンテーションを見ていただくことなどが考えられる。震災はその地域だけではなく、我々も被災する可能性があり、身近な事であることを、そして持続して誰もが意識して行く必要があることを実感してほしいし、そのように考えることができる生徒を育てていきたい。

保育においても交流を継続して、おもちゃなどの媒体に加えて、食の領域でも実践を試みたい。

2014年度2015年度の公開研究会において、ICTと学校図書館の活用を取り入れることで、家庭科の授業にどのような効果があるのかを探ったが、2016年度も生徒が主体的にかかわり、お互いに学び合える授業実践について提案することができた。今後も継続することが課題である。

「家族・家庭と子どもの成長」「幼児のおもちゃ作り（保育体験・交流）」「リメイク」「調理」授業においてICTを活用したが、更に発展させた使用を行ないたい。



衛生授業



保育体験

この部分は
公開に適さないため
掲載できません。

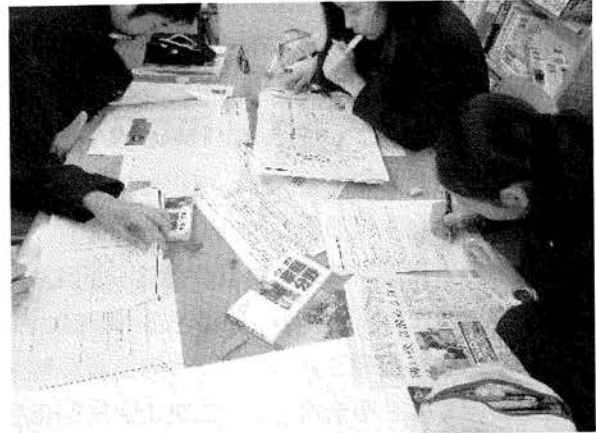
日本教育新聞（保育体験記事）

「災害時を意識した住まいと暮らし」授業実践

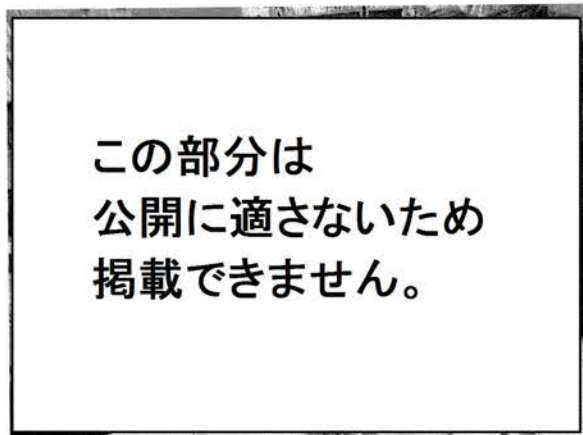
i. 授業風景



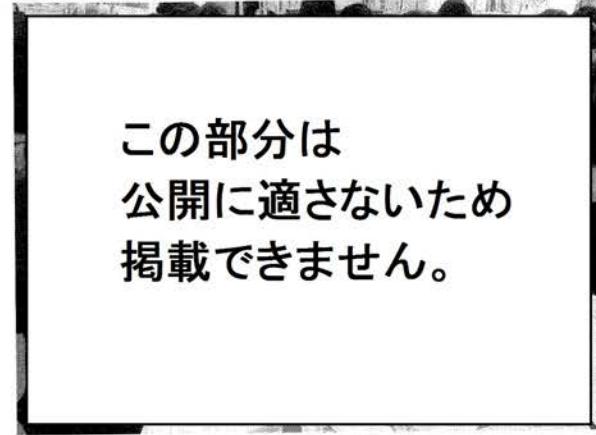
避難所生活を知る



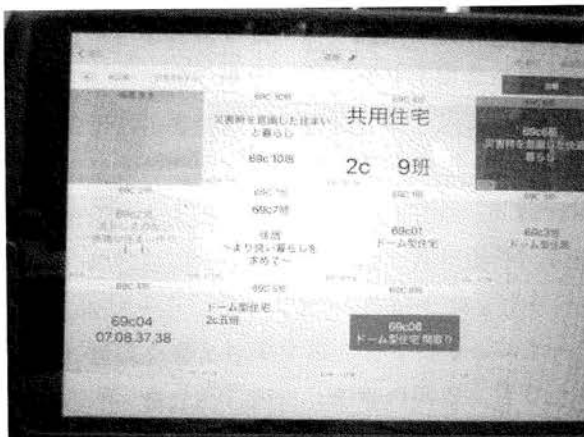
資料まとめ



付箋による話し合い



レポート作成



プレゼンテーション作成

ii. 学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

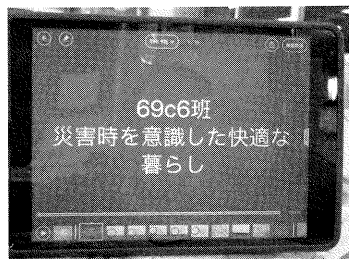
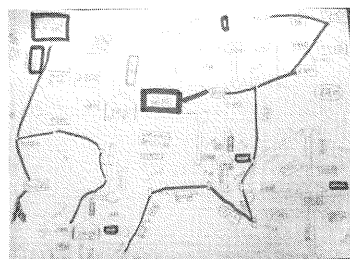
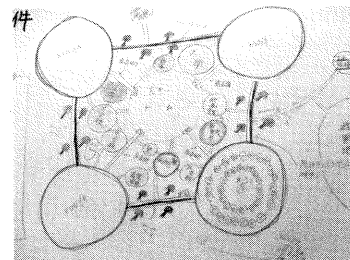
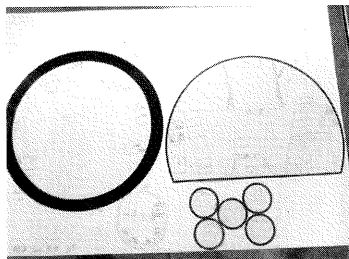
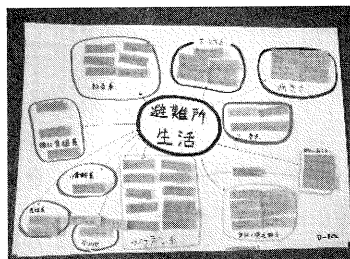
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は自然災害が多く、誰もが地震等により被災する可能性があり、常日頃から災害時を意識する機会を持つ。 ・現代の中学生は、協働体験が少なく、コミュニケーションをとる機会が減少してきているといわれているが、災害を他人事ではなく、自身にとって関わりのあるものとして考えることができる。 ・「災害時を意識した住まいと暮らしの教育」を考え、住まう人の立場になり、自分に置き換えて「どのように暮らしたいのか」を考えながら、住まいや住まいを取り巻くものを考えることができるようになる。
学習活動	<p>各班で災害時の居住環境において「避けたい・不快」と自分が思う事項について、話し合い、まとめる。</p> <p>①【個別ワーク：導入】各自およびジグソー学習による住居に関する基礎知識の収集</p> <p>②【グループワーク：班での議論】各班で災害時の居住環境に関するテーマを考える。</p> <p>③【個別ワーク：レポートの作成】各自で仮設住宅における課題、仮設住宅の作り手となる場合を想定して、課題解決のための具体策についてレポートを作成する。テーマについて各自でインターネットや学校図書館で調べた結果をレポートにまとめる。</p> <p>④【情報の共有】班内でプレゼンテーションを行う。</p> <p>⑤【グループワーク：コミュニティについての班での議論】</p> <p>⑥【グループワーク：プレゼン作品の作成】iPadを用いて学習ソフト（loilo ノートソフト）で班のプレゼンテーション作品にまとめる。</p> <p>⑦【発展】新しい仮設住宅であるドーム型住宅を学ぶことで、災害時における居住環境の問題解決について理解を深める。</p>
準備品	<p>プリント、ドーム型プリント、画用紙（四つ切り・八つ切り）、新聞・本から作成の資料、本、i-pad、モニター、発砲スチロール箱、バランスボール（白）、丸シール、付箋（青・赤）、マジック、loilo ノートソフト</p>
実施場所	<p>家庭科室・学校図書館</p>

iii. 学習の流れ

時間	場所	概要 (箇条書き)	活動記録 (写真添付)	対象者の反応
1時間目 (50分)	学校 図書館	<p>(1) ①東日本大震災(ふくしまの30日)の本(福島民報社編)の体育館での生活の写真をモニターで観る。 ②3.11.時の本校での先輩の中学生たちの様子、体育館での寝泊り、食事の事などの事実を伝える。 ③付箋を班の画用紙に並べ・同事項は重ねながら思いや意見を出し合う。</p> <p>(2) ①新聞・本からの4種類の資料を各班に渡す。 ②班内で、何が記入されていたのか自分のまとめをスピーチして、4つの資料の情報を全員が共有する。 ③班内で話し合い、新たに考えたこと、意見を共有する。 ④災害時の「住」について「避けたい・不快」と思う事項のまとめを各班ごとにする。</p>	 <p>当時、小学生であった自分のことを思い出す。 災害時の「住」について「避けたい・不快」と自分が思う事項をプリントに記入する。 →水色の付箋に各自で記入。(3分) →班の画用紙に並べる。(5分) 4つの資料から自分の担当を1つ決め、読んで、大切なことをプリントに書きとめる。</p>  <p>(10分) 自分のまとめをスピーチする。(1人1分×4人) 新たに気づいたこと、知ったことをピンクの付箋に記入して、班で相談しながら4つ切りの画用紙にまとめる。</p>  <p>内容ごとにくくる。班ごとにマジックで記入。(5分) グループ分けした内容の中から、レポートの各人の担当テーマを1つ選ぶ。</p>	<p>驚きの声。 「赤ちゃんもいるよ。」 「壁がない。」 「皆、同じもの食べてる。」 「お年寄りがたくさんいるよ。」</p>
2時間目 (50分)	学校 図書館	<p>(3) レポートにまとめる：①資料、学校図書館の本、インターネットを使った調べ学習。 ②「仮設住宅に関連して、どのような問題・課題があり、その対策には何が考えられるのか。」「仮設住宅を作る側に立った場合にどのような配慮・具体策があるのか。」 ③各自がまとめをスピーチし、より深い各班の情報を班で共有する。ドーム型住宅の資料(インターネットから)イメージを伝え、次回授業で、ドーム型の仮設住宅について、考えて、構想してもらおうことを伝える。</p>	 <p>各自担当事項のレポートを作成する。(30分、A4版1枚) 知識のエキスパートとして各自がまとめをスピーチする。(1人1分×4人) レポート追記・仕上げ(5分)</p> 	

3時間目 (50分)	家庭 科室	<p>(4) ①ドーム型住宅について説明する。</p> <p>②ドーム型住宅で、自分の家を構想する。</p> <p>③共用ドームを1つ班で構想する。共用ドームと班員(4件)の配置を考える。</p>	<p>ドーム型住宅の利点などを知る。ドーム型住宅で、自分の家を構想する。(平面図、上からと側面からの2ヶ所について各自のプリントに記入する。)</p> <p>4件について、共用ドーム</p>  <p>を設定しながら、コミュニティを考える。班でドーム型の図に共用ドームを記入して、四つ切り画用紙に貼る。4件の配置図も貼る。</p>	<p>「1人で住みたい。」</p> <p>「中に階段作っても、いいですか?」</p> <p>「階段は横から見るとどう描くの?」</p> <p>「明るく窓は大きく上にとりたい。」</p> <p>「共用部分と自分の家は離したい。」</p> <p>「便利だから、4件は共用部分とくっつけたい。」</p>
4時間目 (50分)	家庭 科室	<p>班活動</p> <p>④共用ドームを設定しながら、16件のコミュニティを考える。</p> <p>⑤共用ドームを設定しながら、160件のコミュニティを考える。</p>	<p>16件は家のドームと共用部分のドームを色を変えて丸シールで貼る。</p> <p>160件は、16件と同じ面に16件を基本のユニットとして、周りに記入する。</p>	<p>「16件だったらコンビニか何か欲しい。」</p>
5時間目 (50分)	家庭 科室	<p>⑥共用ドームを設定しながら、1600件のコミュニティを考える。</p> <p>プレゼンテーション作成準備 入力原稿書き。</p>	<p>1600件は、八つ切りの新たな画用紙に全体像、共用部分の特徴と共に記入する。</p> <p>16件→160件→1600件のコミュニティ配置について、そのポイントと理由を各自プリントに記入する。</p>	<p>「1600件は大学が欲しい。1600では無理でしょ。」</p> <p>「でも、中学校とか小学校は欲しい。」</p> <p>「図書館みたいなところが欲しい。」</p>
6時間目 (50分)	家庭 科室	<p>(5) プレゼンテーション作成 loiloノートソフトで入力する。</p> <p>プレゼンテーションを観る。</p>	<p>写真、音声を入力。個人の構想、班の共用ドーム、4件、16件、160件、1600件の配置写真とそれぞれのポイントを入力する。</p> <p>(全体で気をつけること、快適にした点などを伝える。)</p> <p>いくつかの班のプレゼンテーションを観る。</p>	

4. 児童・生徒の作品



5.

<p>実施に当たり工夫した点、苦勞した点</p>	<p>工夫点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有のために、班内での1分の発表時間を作り、ミニプレゼンテーションをした。 ・個人の感想から、班への共有につなげるために、付箋の色を変えた。 ・班の共有を全体の共通認識にするために、資料を4つのグループで準備した。 ・視覚でわかりやすくなるように、最初の共用ドームのプリントの色をクリーム色にした。 ・丸シールの活用で、時間短縮と色分けをした。 ・入力用のソフトを利用し、生徒が単純な作業での入力を可能にした。 ・学校図書館を活用した。 <p>苦勞した点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi環境に影響を受ける時間帯があった。
<p>児童・生徒の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間での議論において、人間関係における居心地の良い距離、治安などの街全体のこと、将来への意識などについて意見が出された。災害時の「住」について「避けたい・不快」と自分が思う事項への記載において、プライバシーがないことをあげ、最も高い事項となった。次いで、風呂、トイレ、寒さについての順に記載が多かった。 ・プレゼンテーション作成までの過程で自ら調べ、考える場面を設定することで、災害を自分自身に関わるものとしてとらえる様子がうかがえた。その結果、人間関係における居心地のよい距離について考えていた。災害を身近なものとしてとらえる様子がみられた。・人が快適に暮らすための生活環境について、被災者の立場に自分を置き換えて考える姿が生徒の意見からうかがえ、災害時の住宅にとどまらず、自らが「住」に対して何を重視しているのかについて考える様子が見受けられた。
<p>教師の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「快適」に関する生徒のこだわりを知ることができた。世代が違っていると、こだわりも少しずれてくることを感じた。今を知る意味でも、今回授業ができてよかった。 ・生徒の正直な思い、壁がないのはつらい、音楽が聴けない生活は考えられない、部屋は明るくあって欲しい、などの思いは生きるためにとっても大切なことだと改めて感じた。それらを中学生として何とか改善できないか、と考える姿はとても頼もしくもあった。大人はもっと身近なこととして、忘れることなく、継続して考えないと、と改めて中学生に教えられました。まずは、この授業を来年度も続けることだと思いました。

6. その他

今回の授業をさらに発展させて、実際に体験された方のお話をお聞きする機会や、その方たちに生徒が考えたプレゼンテーションをみていただき、それらを生徒に返せる授業にしたい。

「生活者の視点」から本当に大切な暮らしの条件について、意見を出し合い、深めたい。(グループワーク：クラスでの議論)

今後、クラスを超えた情報の共有をしたい。(ICT制作物を活用した情報共有)

今年度、助成で震災や住居関連の多くの本を購入でき、本校学校図書館に寄贈でき、来年度以降の授業にもつなぐことができ良かった。

(文責 栗原智美 2016年度住教育授業づくり助成)

共通配布資料

- A 切り抜き速報 「食と生活版」2016年11月号 巻頭特集 防災の日に～避難所生活を知らう～
ニホンミック 切り抜き速報
- B 読売新聞記事 2014年2月4日～8日 仮説住宅は今 第2部 1～5
- C 大震災に備える工務店のための知恵袋(その3) 避難所が抱える問題
SAREX News 別冊 No.3 May 2016
- D 『仮説住宅16プラン』 マザープロジェクト編 書肆侃侃房 16p～30p抜粋

No	分類	書名	著者名	出版社	出版年	備考
1	015	走れ!移動図書館:本でよりそう復興支援(ちくまプリマー新書)	鎌倉 幸子	筑摩書房	2014年1月	
2	369	検証 東日本大震災の流言・デマ(光文社新書); 検証 東日本大震災の流言・デマ(光文社新書)	荻上 チキ; 荻上 チキ	光文社;光文社	2011年7月	
3	369	発達障害児者の防災ハンドブックーいのちと生活を守る福祉避難所を	新井 英靖; 金丸 隆太; 松坂 晃; 鈴木 栄子	クリエイツかもがわ	2012年6月	
4	369	特別授業 3.11 君たちはどう生きるか(14歳の世渡り術)	あさの あつこ; 池澤 夏樹; 鎌田 浩毅; 最相 葉月他	河出書房新社	2012年3月	
5	369	地震イツモノートー阪神・淡路大震災の被災者167人にきいたキモチの防災マニュアル		木楽舎	2007年4月	
6	369	アウトドア流防災ブックー地震・災害 ノウハウと道具が家族を守る(ポケットBE-PAL)		小学館	2004年9月	
7	369	M9.0 東日本大震災ふくしまの30日	福島民報社	福島民報社	2011年4月	
8	369	1500日 震災からの日々	岩波 友紀	新日本出版社	2016年2月	
9	369	6枚の壁新聞 石巻日日新聞・東日本大震災後7日間の記録<6枚の壁新聞 石巻日日新聞・東日本大震災後7日間の記録>(角川SSC新書)	石巻日日新聞社編	KADOKAWA / 角川マガジンス	2011年9月	
10	369	これからの防災・減災がわかる本(岩波ジュニア新書)	河田 恵昭; 河田 恵昭	岩波書店;岩波書店	2008年8月	
11	369	東日本大震災と子どもー3・11あの日から何が変わったか(コミュニティ・ブックス)	宮田 美恵子	日本地域社会研究所	2016年2月	
12	369	あのとき避難所はー阪神・淡路大震災のリーダーたち	松井 豊; 西川 正之; 水田 恵三	ブレーン出版	1998年3月	
13	369	災害・防災図鑑ーすべての災害から命を守る	CeMI 環境防災研究所	文溪堂	2013年4月	
14	369	実証・仮設住宅:東日本大震災の現場から	大水 敏弘	学芸出版社	2013年8月	
15	369	災害支援手帖	荻上チキ	木楽舎	2016年3月	
16	369	震災から身を守る52の方法;大地震・火災・津波に備える 震災から身を守る52の方法		株式会社アスコム; アスコム	2011年4月	
17	369	ユニバーサルデザインーみんなの暮らしを便利に<1>ユニバーサルデザインってなに?	成松 一郎	あかね書房	2006年4月	
18	369	ユニバーサルデザインーみんなの暮らしを便利に<2>暮らしの中のユニバーサルデザイン	星野 恭子	あかね書房	2006年4月	
19	369	ユニバーサルデザインーみんなの暮らしを便利に<3>まちのユニバーサルデザイン	中和 正彦	あかね書房	2006年4月	
20	369	人を助けるすんごい仕組み;人を助けるすんごい仕組みーボランティア経験のない僕が、日本最大級の支援組織をどうつくったのか	西條 剛央; 西條 剛央	ダイヤモンド社	2012年2月	

21	369	帰宅難民なう。	難民 A	北辰堂出版	2011年4月	
22	369	大震災 日本列島が揺れた—高校生・高等専修学校生 75 人の記録	まどみちお	小峰書店	2012年7月	
23	369	12歳からの被災者学—阪神・淡路大震災に学ぶ 78 の知恵	メモリアルコンファレンスイン神戸他	日本放送出版協会	2005年1月	
24	369	笑う、避難所 石巻・明友館 136人の記録 (集英社新書)	頼所 直人; 名越 啓介	集英社	2012年1月	
25	369	被災後を生きる - 吉里吉里・大槌・釜石奮闘記	竹沢 尚一郎	中央公論新社	2013年1月	
26	369	被災地の本当の話をしよう (ワニブックス PLUS 新書)	戸羽 太; 戸羽 太	ワニブックス	2011年8月	
27	369	幸せを届けるボランティア、不幸を招くボランティア (14歳の世渡り術)	田中 優	河出書房新社	2010年7月	
28	369	検証 東日本大震災 そのときソーシャルメディアは何を伝えたか? (ディスカヴァー携書)	立入 勝義	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2011年6月	
29	369	あなたと家族の命を守る 目からウロコの防災新常識	山村武彦	ぎょうせい	2010年2月	
30	369	東日本大震災—読売新聞報道写真集		読売新聞社	2011年4月	
31	383	トイレ:排泄の空間から見る日本の文化と歴史 (シリーズ・ニッポン再発見)		ミネルヴァ書房	2016年10月	
32	518	トイレのなぞ 48	柏木 牧子	草土文化	2001年10月	
33	518	コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる	山崎 亮	学芸出版社	2011年4月	
34	518	五感で楽しむまちづくり—豊かな暮らし・にぎわい・つながりの創造	山下 袖実; 内藤 克彦; 荒井 眞一	学陽書房	2011年1月	
35	518	ポータルランド 世界で一番住みたい街をつくる	山崎 満広	学芸出版社	2016年5月	
36	520	14歳からのケンチク学	五十嵐 太郎; 石田 壽一; 今井 公太郎; 木下 庸子; 後藤 治; 斉藤 理; 坂牛 卓; 佐藤 淳; 菅野 裕子; 中川 理; 永山 祐子; 平田 晃久; 藤本 壮介; 南 泰裕; 武藤 隆; 本江 正茂; 山形 浩生	彰国社	2015年3月	
37	520	伊東豊雄 子ども建築塾	伊東豊雄; 村松伸; 太田浩史; 田口純子	LIXIL 出版	2014年12月	
38	527	これなら住みたい 仮設住宅 16 プラン	マザー プロ ジェクト 桑原あきら 編著	書肆侃侃房	2011年11月	
39	527	仮設のトリセツ—もし、仮設住宅で暮らすことになったら	岩佐 明彦	主婦の友社	2012年2月	

第2学年 技術・家庭科(家庭分野) 学習指導案

授業者 栞原 智美

学級 2年C組(男子20名、女子20名)

場所 東京学芸大学附属世田谷中学校 図書館

【題材名】 「調理実習に必要な衛生準備と片付けを考えよう」

～ICT機器を利活用して説明してみよう～

【概要】 調理実習を開始して実習をしているところであるが、衛生に関する意識が低く、実感を伴っていない。これから続く実習時に何を注意すれば、より衛生的に調理ができるのかを考えさせたい。自分と同じ中学の1年生が来年調理実習を始める前に見ると役に立つ、調理実習を衛生的におこなえるPR画面を作る課題を設定した。衛生への関心を高めるために、青菜の卵とじの実習時にペタンチェックという寒天培地を使用して、どこの場所の状態を知りたいかをクラスごとに4つあげ、4クラス分16カ所についての結果を映像で見せた。また、家庭の調理とは違う調理であることを、意識するための材料として日本家政学会編「炊き出し衛生マニュアル」を映像で取り込み同時に示した。食中毒がおこる時として、①常温放置②調理中の汚染③加熱不十分などの要素と加熱しても生き残る菌や腸炎ビブリオ菌などを例にとり、菌の増え方と食中毒発症の仕組みを伝えている。班ごとにテーマを共有し、分担を決めて、各自の音声も取り入れた1つの映像作品にまとめる。それらをクラス全員で見て、振り返る場面と設定する。より具体的で身近なものとして捉えることができるように、書籍等の調べたことのまとめの画像だけでなく、実際の家庭科室の映像や、自分で動作をおこなった写真も使用可能とする。授業のはじめの場面で今までの内容を振り返り、なぜ、そのテーマを取り上げる必要を感じたのかを考える。loiloノートソフトで4つの作品をつなげるグループ活動を取り入れる。ICT機器を使用し、協働して全体の構成を考え作業することでコミュニケーションをとる場面設定をする。1年生へ向けての画像であるが、自分たちがこれからの調理実習で活用できることをあげ、振り返る。

1. 本時の目標

衛生について学習する必要があると感じることができる。これからの調理実習で活用できることをあげ、発表を振り返り説明することができる。

2. 本時の位置づけ

本時は、2年生の「食生活と自立」の内容の指導計画において次のように位置づけられる。食生活と自立(19時間扱い)

I-1. 健康的に食べる1(8時間扱い)

- (1)栄養と食品・・・2時間
- (2)簡単な調理・・・2時間
- (3)食品衛生について・・・4時間(本時4/4)

I-2. 健康的に食べる2(6時間扱い)

- (1)調理基礎・・・2時間
- (2)日常食の調理・・・2時間

(3)食品の選択と保存・・・2時間

II. 応用調理 (5時間扱い)

(1)お弁当を計画しよう・・・1時間

(2)お弁当をつくろう (大量調理)・・・2時間

(3)ICTを用いてまとめをしてプレゼンテーションをしよう・・・2時間

本時は学習指導要領では家庭分野 内容B「食生活と自立」(3)ア「安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができること。」 「内容の取扱い」については、(1)「実践的・体験的な学習活動を充実すること。」(2)「問題解決的な学習を充実する。」場面として位置する。本時は2年生の食生活学習に入って8時間目である。

3. 本時の主張

(1)前時までの振り返りから導入し、衛生について学習する必要があると感じる。

どのようなテーマが考えられるか予想させる。なぜ、大切なのかを考える。前時の振り返りが本時の動機づけのきっかけとなっている。

(2)協働の結果としてのグループ発表場面での個人の振り返り学習。大量調理にとって必要なことにも考えを及ぼせながら、衛生についての理解が深まる。

(3)班としての活動をふり返る。

(4)2年次最後のお弁当調理の大量調理実習時につなげる。例えば、使い捨て調理用手袋、マスクなどについての見解を持つなど。

4. 本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1. 前時までの学習をふり返る T1: 前時までにどのような情報を見つけましたか。 S: (前時までの資料を確認) T2: では、それらの情報の中でどのような事柄が大切だと思いましたか。それはなぜですか。 S1: 食中毒に関する情報、施設の関する情報。S2: 自分たちの手に関する情報。S2: 時間に関する情報。 T3: 多いと思われる順にテーマを予想して記入しましょう。 S: (多いテーマを予想して、記入する。) (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習をふり返る ・前時までにどのような資料・情報を図書館等で見つけたかを聞く。 ・情報の中の大切な事柄を思い出させる。 ・それはなぜ大切な情報であったのか考えさせる。 ・衛生に関する情報を頭の中で整理する時間を与える。
<p>2. 各班制作のプレゼンテーション画像をみる。 T1: 各班の作品をみながら、自分でも気をつけたいと思った内容の作品に◎印を付けましょう。なぜ自分はそう思ったのかを書きましょう。 T2: 映像作品としてわかりやすかった作品に○印を付けましょうどのような点がわかりやすかったかを書きましょう。(20分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の作品をみながら、自分でも気をつけたいと思った内容を考えさせる。なぜ大切と思ったのかを表現させる。 ・映像作品としてわかりやすかった作品のどのような点がわかりやすかったかを各自で考えさせる。
<p>3. 選んだ作品の内容や特徴などを示し伝え合う。 T1: どのような特徴が◎印○印がついた作品にはあったのでしょうか、各班で話し合しましょう。</p>	<p>根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での調理実習時に大切なことを班で考える。
<p>各班でどのような特徴が◎印○印がついた作品にはあったのか、話し合う。1年生にみせるのに一番良いと思う作品は何班の作品か。理由もまとめる。</p>	
<p>T2: 1年生にみせるのに一番良いと思う作品はどれですか。理由をまとめましょう。(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理由を明らかにする。話し合う。
<p>4. ふり返り T1: ふり返り、ワークシートのまとめを発表しましょう。 T2: どのような内容が大切でしたか。 T3: どのようなプレゼンテーションがわかりやすかったですか。 S: みやすいもの。大切なことが書いてあるもの。(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各班代表発表。説明する生徒は起立をする。 ・学校での調理実習時に大切なことをクラスで考える。 ・大切な衛生関連事項とわかりやすいプレゼンテーションについて確認する。